

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0570706606		
法人名	医療法人 仁恵会		
事業所名	グループホーム夕陽の丘 柳田		
所在地	湯沢市		
自己評価作成日	平成30年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1
訪問調査日	平成30年10月26日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・「自立支援」をケア目標とし、過剰介護は行わず、日常生活において利用者が持っている力を発揮出来る場(食事作り・園芸活動・レクレーションなど)を作ることで意欲を引き出し、張り合いを持って生活できるように努めております。  
 ・地域において認知症ケアの拠点となれるよう、認知症カフェを開催しております。  
 ・職員の資質向上のため、研修・勉強会に力を入れており、全国大会での事例発表も行ってまいります。

法人の施設と共に敷地の一角にあり、合同で防災訓練を行っている他、ホーム独自の対策をして有事に備えています。地域との協働を図る中で認知症カフェをJAと共催しており、認知症予防カフェと呼称することで多くの地域の方の参加が得られています。婦人会がボランティアとして協力している他、地域包括支援センター、保健師に働きかけて協力が得られるようになり、今後は厚生連の病院からも参加することになっています。また、家族宛てのお便りに利用者の生活の一コマを報告することで家族は利用者の日々の様子を知ることができると共に職員の姿勢を伝えることができていると、家族との関わり方も含めて理念が職員に浸透しています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	64	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理念に基づいたサービスを提供出来るよう理念教育を行っております。その中で、地域密着型サービスに求められているニーズに触れ、事業者ができることを取り組みに繋げております。	言葉のかけ方を工夫、配慮することで利用者の持っている力を引き出せるケアを心がけ、適切な援助で利用者の自立に繋げていけるよう職員が一丸となって理念の意義を認識して取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に民家がなく地域交流が難しい立地条件ではありますが、町内の行事へ参加したり、認知症カフェを開催し地域の方と事業所が交流できるように取り組んでいます。	多くの地域の方々との関係を築くことができ、お互いに支え合いながら地域に溶け込んだホームを目指しています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の地区センターにて認知症カフェを年3回開催しております。その中で、認知症に関する相談や講話を行い、認知症への正しい知識を持って頂けるように努めております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて地域の方のホームへの理解が深まっていることを感じております。運営推進会議にて認知症カフェの開催においても意見を頂いたり、地域の広報に案内を載せて下さったりと協力頂いております。	地域との協力関係構築に会議が機能し、さまざまな意見を出していただいてサービスの向上に繋がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	GHネットワーク会議に参加して頂き、取り組みの報告を行ったり、相談に応じてもらっております。また、認知症カフェにも毎回参加してもらい、認知症簡易測定機で希望者に測定や相談に応じて頂いております。	各種の会議や認知症カフェを通じて連携が図られ、協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部・外部研修にて身体拘束について正しい理解をしており、身体拘束は行っていません。スピーチロックによる拘束についても注意を払っております。	適正化委員会や毎月の会議で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。考えられるリスクについても家族に説明し、理解が得られるよう取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様上記取り組みをしております。目に見えた虐待はありませんが、不適切ケアでは？と感じることがあった際は、毎月の会議で全職員で検討をおこなっております。職員のストレスや仕事の悩みを打ち明けやすい環境作りに努めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通じて制度に関して理解しておりますが、利用されている方はおられません。今後必要とされる方がいらっしゃれば活用出来るよう支援していきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書及び口頭での説明を行い、理解して頂けるよう努めております。家族様から不安な点などお聞きしながら契約を行っております。解約(退居)では、家族様が納得された上で手続きを行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話・おたよりなどで定期的な状況報告を行っております。その際、家族の要望など伺い可能な限りサービスへ反映させております。また、第3者機関についての説明も行っております。	面会時や電話の際に意見を出していただけるように働きかけています。要望等には随時対応できるよう取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を行っており、運営に関することも含めた意見交換を行っております。職員が組織の一員として働いていることの自覚と責任を持てるよう日頃から改善策や意見を出しやすい環境に努めております。	経験年数の長い職員が多く、気付いたことを検討してサービス及び運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課により、努力や実績、勤怠を把握し昇級、賞与支給を行っているほか、面談により、この職場でやりたいことを引き出し、実現できるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課や面談により職員個々の力量を把握し、適したレベルの内部研修へ参加できるよう研修機会を確保しているほか、資格取得奨励支援金制度により、意欲向上と負担軽減を図っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会の役員として、日頃から他の事業所との関わりがあり、研修等で管理者や職員が同業者と交流できるよう取り組んでおります。また2ヶ月ごとの管理者交流の場で情報交換しております。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に他機関とも連携し情報提供を頂き、抱えている問題や不安などの把握に努めております。また、ご本人との会話から不安なこと、困っていることを組み取り思いに寄り添ったサービスが提供できるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の抱えている悩みや要望に耳を傾け、連絡や報告を密にし安心に繋がるよう努めております。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念でもある「自立と相生」のもと、利用者の尊厳を護り、お互いに支え合える関係を目指しております。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームのシンボルマークは利用者・家族・職員が手を取り合う構図になっており、家族と一緒に支える関係を理想としております。また、利用者と家族が良好な関係でいられるよう配慮しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の様子を気にされている方もおられ、家族の協力を頂きながら、自宅に行けるよう協力頂いております。外出レクなどで馴染みの場所に行ける支援をしております。面会時には、ゆっくりとお話し出来るよう努めております。	家族の協力も得られ、その関係性が途切れないよう取り組み、更に在宅時に行っていたことを生活に取り入れてその人の力を引き出し、継続できるよう支援しています。はまなす会(地域の婦人会)の方々とも馴染みの間柄になっています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良好なコミュニケーションが図れるよう席に配慮したり、協力しながら仕事やレクリエーションなど行えるよう環境づくりをしております。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後もホームに来て下さる家族もおります。退居された後もいつでも相談に応じる旨を説明し、必要があれば支援しております。また、安心して生活をおくれるよう退居後の状況確認も行っております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画の見直しの際は利用者へサービスについてお話を伺っております。日常生活で利用者がお話された思いや希望などは記録に残し、利用者の気持ちに寄り添い本人本位に検討を行っております。	日常生活の中で職員が気付いたことを日々の生活に活かせるよう検討し、利用者の気持ちに沿った支援に繋げています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、他事業所より情報提供を頂いたり、センター方式のアセスメントシートを活用しており、家族や利用者からお話しを伺い情報を把握しております。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のカンファレンスでサービスの評価や状況の確認を全職員で行っており、現状の把握に努めております。必要があれば、介護計画を変更しております。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族へは、利用者の現況を報告し、今後の要望などを伺っております。また、本人や担当職員からの意見を反映し利用者の思いに添った介護計画を作成するよう努めております。	本人、家族の意向を踏まえて介護計画の作成、見直しが行われています。フロア会議で全職員が検討し、共有しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をモニタリングに活かせるよう、気付きや変化があった事などを分かりやすいように記録し、情報共有しております。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の生活が豊かになるよう地域資源を活用し社会との繋がりを大切にしております。また、活用できる地域資源を新たに見つけることで、生活圏が広がるよう努めております。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は家族と相談し決めております。長年のかかりつけ医があれば継続し受診できるよう支援しております。	入居前からのかかりつけ医等、希望に沿った支援が行われています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携にて併設する関連施設の看護師の訪問が定期的であり、報告や相談を行っております。急変時には、早急に駆けつけ対応して頂いております。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供を行い、環境の変化での混乱を少なくできるよう努めております。また、入院中も状況を伺い可能であれば、早期退院に向け話し合いを行っております。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	地域の医師不足も深刻であり、看取りの協力は難しいのが現状です。家族へは、早い段階から事業所での方針を何度か説明しご理解頂いております。	入居時にホームの指針を説明しています。医師の確保が困難な状況があり、ホームの暮らしを継続していくのが困難な状態になった時には再度家族と話し合い、適切な支援ができるよう取り組んでいます。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習を受講しております。また、看護師からの意見を聞き内部研修にて急変時の対応の勉強会を定期的に行っております。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害・火災時の訓練を定期的に行い災害に備えております。また、外部研修では、実際に災害にあった事業所からのお話を聞く機会があり、事例として検討も行ってまいります。地域の消防団の方へは、訓練時参加頂いております。	法人内の防災委員会を中心に協力体制がとられています。人手の少ない夜間帯や災害状況に応じた対策を再度検討し、訓練を積み重ねていかれることを期待します。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居することで利用者のプライバシーに触れることを把握しており、介助時には、プライバシーに配慮し、尊厳を護れるケアを行うよう努めております。	生活を共にすることでプライバシーに触れることにもなり得るということを職員が自覚し、排泄や入浴介助、声かけに配慮し、気遣いできるように努めています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が遠慮せずに思いや希望を言えるよう日頃から関係づくりに努めております。利用者が自己決定出来るようゆっくりお話を伺いながら働きかけを行っております。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや気分に合わせて、その日の過ごし方を本人からの要望を聞いたり、こちらから提案し利用者に決めて頂いております。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者と一緒に服を買いに言ったり、誕生日には好みの洋服をプレゼントしております。食後など衣類の汚れを確認するなど身だしなみに配慮しております。また、定期的に美容室へ出掛けたり、出張理容室を利用しております。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物から、調理、盛り付け、片付けの過程を利用者と行っております。食事作りには、その方の力量に応じて仕事をお願いし、みんなが関わられるよう支援しております。献立はその方の好みに応じてニューを変えております。	毎日の食事の一連の作業を利用者と職員が一緒に行い、一人ひとりの力が活かせる支援が行われています。職員がさりげなく見守り、会話が弾んだ楽しい食事風景となっています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士に確認して頂き栄養バランスに配慮しております。水分量、食事摂取量を把握し、摂取量が低下している際は、代替の食事を試みて少しでも摂取して頂けるよう工夫しております。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを行っております。年に1回は歯科医の健診にて口腔状態を確認して頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	過剰なおむつは使用せず、介助が必要な方は、排泄パターンを把握しトイレへ誘導しております。また、その方に合わせた排泄用品を使用し、パットの交換時には、羞恥心に配慮しながら対応しております。	布パンツのみの方もおり、トイレでの排泄を支援しています。夜間の状態や習慣等を考慮し、その人毎の排泄パターンを把握した支援が行われています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課の朝の体操や天気の良い日は、ホーム周辺の散歩に出掛け運動しております。便秘の方へは、乳製品を摂取して頂いたり、水分量を多くするなど工夫するべく薬に頼らず排便できるよう支援しております。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入浴して頂けるよう、その方の好むお湯の温度で調整しております。入浴はこちらから、お声掛けを行います。利用者の気持ちを尊重し時間や日にちを調整しております。	週2~3回の入浴支援が行われています。安全に配慮した介助が行われていますが、更に利用者の安心と安全を確保し、全員が浴槽での入浴が楽しめるようバスリフトの導入を検討しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠に繋げるよう、日中は活動量を多くしております。また、表情をみて疲労感がみられる際は、休んで頂けるよう配慮しております。一人ひとりの生活習慣を大切に、安眠できるよう支援しております。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬局から薬の説明や相談に応じて頂いております。薬の変更時など全職員が把握できるよう効能なども含め申し送りを行っております。状態を観察し副作用と思われる症状があった際は、かかりつけ医へすぐに連絡しております。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的な外出レクや個別での買い物などを行っており、外食も楽しんで頂いております。日常では、生活歴から、その方の興味に合わせて園芸や食事作り、裁縫などを行って頂いたり、関わりの中で出来ることを見つけ張り合いになるよう支援しております。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など外出支援を日常的に行っております。本人の希望を聞き個別での外出や家族の協力も頂きながら、お墓参りなどにも出掛けております。	2～3人での外出も定期的に行い、気分転換を図ることができるよう取り組んでいます。畑の様子を見に行ったりプランターの水やりをしたり等、利用者は得意なことを自分の仕事として行い、戸外で過ごすことができています。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手持ちのお金が無いことへの不安を考慮し、少額ですが、お金を所持されている方も数名おられます。買い物時には、お預かりしているお金のことを説明し使えるよう支援しております。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が遠方にいらっしゃる方もおり、書類の郵送時に手紙を書いて頂き同封したり、電話でお話ができるよう支援しております。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに装飾を行い、季節を感じて頂ける様工夫しております。また、光の調整や換気や温度調整を行い、居心地の良い場所となるよう配慮しております。特にお花は喜ばれる方が多く季節を感じて頂けるため、玄関やフロア、居室へ飾るようにしております。	ホールは開放的で明るい共用のスペースになっています。清潔を心がけ、活け花等で季節を感じることにできるように取り組んでいます。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やフロアにソファを設置するなど限られた空間の中で工夫しております。また、利用者同士が周囲に遠慮せず話し出来るよう配慮しております。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごして頂けるように自宅を使い慣れた家具を持ってきていただいたり、利用者と一緒に相談しながら写真やお花などの装飾の工夫をしております。	1日に2度、時間を決めて各居室の換気を行っています。自分で活けた花を飾っている方もおり、利用者それぞれが清潔な環境の中で自分なりの生活ができるよう支援しています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所の高さや調理台など利用者と一緒に出来るよう工夫しております。また、必要に応じて居室や廊下への手すりの設置や事故防止のための点検も行っております。		